

佳作

ぼくはふかさくきょうのすけ

茨城県

日立市立久慈小学校二年

深作 京之介

ぼくのなまえは、「ふかさくきょうのすけ」といいます。ひらがなでかくと、なんと十もじもあります。

ようちえんのときに、はじめてじぶんのなまえをかくれんしゅうをしました。ぼくは、てがいたくなるくらいがんばってかいたけれど、いつもみんなよりたくさんじかんがかってしまいました。おなじクラスのれなちゃんは、あつというまにかいていました。みょうじをあわせても、ぼくのはんぶんの五もじだけしかないのです。ぼくは、うらやましくなりました。

どうしておとうさんとおかあさんは、ぼくにないなまえをつけたんだらう。ぼくは、ふしぎにももって、おとうさんにきいてみました。おとうさんはわらって、

「はじめからないなまえにするつもりはなかったんだよ。ただ、きょうとふの『きょう』というかんじをつかいたかったんだ。」といいました。それで、おかあさんと

「きょう」のつくなまえをあれこれかんがえて、やっと「きょうのすけ」にきまったのです。

「きょう」というかんじには、おおきいといういみがあるそうです。おとうさんは、

「からだがおおきいということではなくて、こころのおおきいひとになつてほしいというねがいをこめてなまえをつけたんだ。」

と、おしえてくれました。

ぼくは、じぶんのなまえにそんないみがあることをして、びっくりしました。おとうさんとおかあさんが、なんにちもかけてぼくのなまえをつけてくれたことも、はじめてしました。いままでなまえをかくのがめんどうで、ぎつにかいてしまったこともあったけれど、これからはこころをこめてじぶんのなまえをかいていこうとおもいました。

おとうさん、おかあさん、ぼくのなまえをありがとう。